



一般社団法人

# 日本小児看護学会

Japanese Society of Child Health Nursing

## News Letter

### 日本小児看護学会 第29回学術集会開催に向けて

学術集会長 松浦 和代  
(札幌市立大学看護学部)



日本小児看護学会第29回学術集会「小児看護の知を国際支援へ」を2019年8月3日(土)～4日(日)、ロイトン札幌において開催いたします。多くの方々からご協力・ご助言を頂き、ほぼ順調に準備をすすめてまいりましたが、開催まで残すところ約1か月となり、次第に緊張感が増してきました。

今回の学術集会プログラムについて簡潔

にご紹介をいたします。

第1日目の会長講演「小児看護の知を国際連携へ」では、私がモンゴル国立母子健康センターとともに進めてきた発育性股関節脱臼(発育性股関節形成不全)の予防的ケアについて報告させていただきます。このプロジェクトは、国際支援を出発点としましたが、やがて国際連携へと発展しました。モンゴル国の厳しい自然環境、文化や習慣を知り、ことばの壁を乗り越えて、問題解決へ努力してきた約7年間の歩みを振り返ってみたいと思います。また、シンポジウム「国際支援を通じて結実する小児看護の知-日本-モンゴル発育性股関節脱臼予防プロジェクトから-」は、本プロジェクトメンバーの安齋利典先生と城戸真紗美氏、支援を受けたモンゴル国医療機関の看護部長であるPurevdavaa, D.氏とByambaa, D.氏の4名の方々にシンポジストをお願いしました。両者の立場や視点から、国際支援や国際連携のあり

方が語られ、将来の展望に示唆が得られることを期待しています。さらに、川田学先生(北海道大学大学院教育学研究院)による教育講演1「子どもの発達を世界の実情からみつめる」、スーディ 神崎和代先生(医療創生大学看護学部)による教育講演2「看護の国際支援から国際連携へ」を通して、国際社会における小児看護のあり方を、皆様とともに再考したいと考えています。

第2日目のプログラムは、特別講演1「伝えるのは命・つなぐのは命」から始まります。北海道を代表する旭山動物園の園長 坂東元氏のお話には定評があり、皆様にもきっとご満足頂けることと確信しております。また、午後には、市民公開講座(患者会コラボ企画)「ダウン症児のためのダンススクール:ビジョントーク&パフォーマンス」を企画しています。市民の皆様と学会員との交流を図り、先入観にとらわれることなく、障がいとは何か、個性とは何か、について見つめ直してみたいと思います。そして最後に、ダンスチームLOVE JUNXにすばらしいパフォーマンスをご披露頂く予定です。どうぞ楽しみにご来場ください。

懇親会は第1日目の夜、同ホテル内におきまして予定しております。北海道のローカルメニューを多く取り揃えました。当日のお申込みも受け付けますので、是非ご参加ください。

一般演題・テーマセッションも多数の応募を頂きました。札幌の地で、第29回学術集会が小児看護の交流を深める機会となることを祈念しております。多くの方々のご参加を、心よりお待ちしております。

### 日本小児看護学会 第29回学術集会ご案内

学術集会テーマ：小児看護の知を国際支援へ

【会 期】2019年8月3日(土)～4日(日)

【会 場】ロイトン札幌(札幌市中央区)

【プログラム】

1日目 8月3日(土)

会長講演 「小児看護の知を国際連携へ」

松浦 和代(札幌市立大学看護学部 教授)

教育講演1 「子どもの発達を世界の実情からみつめる」

川田 学(北海道大学大学院教育学研究院 准教授)

教育講演2 「看護の国際支援から国際連携へ」

スーディ 神崎 和代(医療創生大学看護学部 教授)

シンポジウム 「国際支援を通じて結実する小児看護の知

-日本-モンゴル発育性股関節脱臼予防プロジェクトから-

テーマセッション、一般演題(口演・示説)

2日目 8月4日(日)

特別講演1 「伝えるのは命・つなぐのは命」

坂東 元(旭山動物園 園長)

市民公開講座(患者会コラボ企画)

「ダウン症児のためのダンススクール; ビジョントーク&

パフォーマンス」

テーマセッション、一般演題(口演・示説)

【第29回学術集会ホームページ】

<http://procomu.jp/jschn2019/>

【参加費用】

当日 会員：12,000円 非会員：14,000円

(事前 会員：10,000円 非会員：12,000円)

※非会員の参加費には消費税が含まれます。

【連絡先】

<学術的なお問い合わせ>

札幌市立大学看護学部小児看護学領域

〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目

<運営に関するお問い合わせ>

株式会社プロコムインターナショナル 札幌支社

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4番地

大通藤井ビル5階503

E-mail: [jschn29@procomu.jp](mailto:jschn29@procomu.jp)

Tel: 011-272-5234 Fax: 011-272-5235

## 30周年記念人材養成PR研修

### 「地域で暮らす医療的ケア児を支援する看護職を増やそう!」の報告

学会では、30周年記念事業の一環として人材養成PR研修「地域で暮らす医療的ケア児を支援する看護職を増やそう!」を、2019年1月12日(土)関西で、2月9日(土)関東で開催しました。



急速な少子高齢化の中で、伸び続ける社会保障費やケアニーズの変化が指摘されています。平成30年度の診療報酬改定では、地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進、新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の充実・実現等が打ち出されています。地域・在宅のあらゆる健康レベルの子どもの生活の場(在宅、学校、放課後等デイサービス、保育所、訪問看護等)における小児看護は急速に拡大整備される方向にあります。携わる看護師の量的質的な不足が大きな課題となっています。そこで、どのような小児看護の場でも、子どもの命を守り、成長発達促進に向けて子どもの生活過程を整え、子どもや家族の力を引き出す、小児看護の基本的な考え方を踏まえて、子どもと家族を支援することができる小児看護の人材養成研修を開始することとしました。そのPRの一環として関西と関東で研修会を開催しました。



プログラムは、(1)社会・医療の動向と小児看護の役割:奈良間美保(名古屋大学)、(2)在宅移行支援:河俣あゆみ(兵庫県立大学看護学部)、(3)学校看護:勝田仁美(兵庫県立大学看護学部)、(4)訪問看護:梶原厚子(㈱スペーススなる)、(5)多職種との連携:近藤正子(大阪発達総合療育センター 相談支援専門員MSW)の5つで、講義のあと職場が混成になるよう配慮してグループワークを実施しました。



アンケートでは、関西・関東とも、病院からの参加者が多く、次いで訪問看護ステーション、施設、その他学校看護関係、行政や看護教育からの参加者でした。参加の

動機は、やはり地域で生活する医療的ケア児の看護の知識を深めたい人が多く、そのほか他機関・多職種と連携していきたいと回答した人が約4割ありました。研修会へ参加しての感想も、高い評価を頂きましたが、多い意見としては、いろいろな職種や現場の人と討議できて意味深かった、地域で生活する上での制度や福祉が分かった、多職種・多岐にわたる講義内容だった、小児在宅の取り組みや現状がよく分かった



などが多く挙がっていました。今後希望する研修会も、在宅や移行・連携に関することが非常に多く、地方での開催を望む声もありました。そこで、学会としては、研修会のDVDを作成し、日本小児看護学会の会員が、都心だけではなく全国各地どこにいてもHP等からこの講義を視聴して、地域在宅の看護に活用いただけるよう現在検討しています。

また、2020年度からは、本格的な人材養成研修として、2つのeラーニングを中心とした研修を計画しています。1つは、基礎研修です。これは、少子化のため、子どもへの看護の提供が、混合病棟や、救急や手術室など成人に混じって行なわれることが増え、小児看護を学ぶ機会がないまま子どもに関わり戸惑う看護職も多いため、そのような方々を対象にした小児看護の基本的なことを学ぶ研修です。もうひとつは、すでに小児看護に携わりながら、医療依存度の高い子どもと家族を対象にどのような看護の場でも子どもを適切にアセスメントし、子どもと家族を支援していける能力を身につける研修で、最後には統合的に顔を付き合わせて学ぶ集合研修もあります。



ニーズが変わる現在の社会において、小児看護に携わる者は、どのような場でも、どのような健康レベルであっても、等しく質の高い小児看護が提供されるよう意識して行動していく必要性を痛感します。

## 研究助成“国際研究発表助成”公募のご案内

現在、2020年度研究助成、2019年度国際研究発表助成の公募をしています。今年度から、会員として活動されている方や多くの会員に助成を受けていただけるように、応募資格を一部変更しています。

研究助成：申請代表者は、今年度会費を納入されている会員で、2019年度を含めて過去2年間に、本学会研究助成や国際発表助成を受けていない方です。入会手続き中には応募できません。また大学や研究機関所属の会員が申請代表者になる場合は、1名以上の小児看護実践家を共同研究者として含めてください。締め切りは、11月末の1回で、年間2件の助成をします。

国際研究発表助成：申請代表者は、今年度会費を納入されている会員で、2019年度を含めて過去2年間に、本学会国際発表助成

- 学術・研究推進委員会 ● 委員長：榎木野 裕美
- 委員：内 正子、泊 佑子、小野 智美、中谷 扶美、長田 暁子、岡崎 裕子

や研究助成を受けていない方です。入会手続き中には応募できません。またすでに国際学術会議に発表が決定している方だけでなく、国際学術会議に演題を提出し、決定すれば今年度の3月末までに助成金の使用が可能の方です。すでに発表が終わっているものは応募できません。締め切りは、4月末(終了しました)、11月末の2回で、年間3件程度の助成をします。

いずれの助成も1件10万円程度です。詳細についてホームページでご案内をしています。不明な点は学術・研究推進委員会にお問い合わせください。

昨年度は応募が多く、皆様のご希望にそえないことがありましたが、あきらめず奮ってご応募いただきますようお願いしています。



## 「リレートーク」 三輪 富士代さん



### 自己紹介

福岡市立こども病院で、看護部長を拝命して4年目となりました。福岡県の筑豊に生まれ、地元の短期大学看護学科を卒業後、都会に憧れて上京し、大学病院小児病棟で勤務しました。その後、看護大学に編入学、大学教員等を経て、大学院修士課程に入りました。修士修了後は、がん専門病院の小児病棟で勤務、2007年に小児看護専門看護師の資格取得、2010年より現病院勤務、2016年から現職です。私が今の立場でやっつけられるのは、副部長、看護師長をはじめ、437名\*の現場のスタッフのおかげです。

(※休職者30名を除く4月の人員数)

### 看護師になったきっかけ

子ども時代は、ミジンコや蟻の巣の観察が大好きでした。ムツゴロウ(畑正憲)さんのファンで、獣医になりたいと思っていた時期もあります。「看護師への憧れ」や「人の役に立ちたい」などと考えたことはなく、母や姉が看護職で最も身近に医療があったこと、スキルを持ってどんな状況でも働き続けることができるという理由で看護の道に進みました。小さい頃、姉が働いていたNICUで保育器の中の赤ちゃんの小さな手を見て、驚き、涙が出そうになったことを鮮明に覚えています。

### 学生時代・新人時代の思い出

看護学生の時に遡ると、実習はそれまでの座学と大きく違い、大変ながら、とても楽しいものでした。指導者さんや教員に指導される中、こっそり採血を教えてくれる医師がいたり、患者さんに慰められたりの連続でした。受け持った患者さんが、「退院になりました。ありがとう」と次の実習先に来てくれたこともありました。実習の毎に、「内科もいいな」「外科もいいかも」と思っていたところ、ちょうど就職試験の時は小児看護の実習中でしたので、「小児看護がしたいです」と面接で答え、小児病棟で働くことになりました。

就職してからは状況は一変し、今考えると恥ずかしいほど、全く何もできない新人でした。休憩の交代で先輩に「ナースコールが鳴ったら出てね」と言われると、ステーションのナースコール盤の前でひたすら立って待っていたり。緊張も強かったので、半年近く食事も喉を通ら

ず、夜も眠れない毎日でした。そんな私が仕事を続けていくことができたのは、支えてくれた同期と先輩たちがいたからで、それが、今の自分につながっています。この経験を毎年、新入職員に話しています。自分の知識と技術が一つずつ増えていくことで、必ずいつか乗り越えられると。

### 小児看護の魅力

何と言っても、子どもとご家族の持つ力の大きさです。長期間の呼吸管理の末、経口摂取ができずに経管栄養で退院したのを、お母様の愛情と粘り強いケアで口から食べられるようになった子ども、痛い治療を頑張っている子ども、一人入院で大泣きしていた中、「ママ、待ってる」という一言に「頑張ってくる」と手術室に入っていった子ども、亡くなった子の「お見送りをしたい」と言ってくる子ども、「今度は自分がお返しをしたい」と医療者になった経験者、書ききれないくらい、子どもやご家族の力の大きさを見てきました。まだ少ししか生きていない子どもたちは、自分より何倍も、何十倍も偉いといつも感じています。

### ストレス解消法

一つは湯船にゆっくりつかることです。アイデアが浮かんでくるのも、たいてい入浴中です。大きなストレスがたまった時は、ジェットコースターなど絶叫系の乗り物で大声を出して発散します。「バカヤロー」と叫びながら乗った後はすっきりしますが、娘に「他の人の大迷惑」と言われます。あまりにも辛い時は何もせず、そこに暫く浸って、最後は、「私ってこんなに頑張っているんだ」と思うことが多いと思います。

### 後輩達に期待すること

期待することは2つあります。1つは、子どもたちとの関わり一つ一つを大切にしてほしいということです。もう1つは、その子の“最善は何か”を考えてほしいことです。“次はなかったんだ”と思って涙したことも何度もあります。“今、この子に何ができるのか、何がいいことなのか”を考え続けてください。

バトンを受けて欲しい人  渡邊 輝子さん

## 理事選挙報告

一般財団法人日本小児看護学会定款細則第5章第9条に則り、2019～2021年度任期の理事選挙が執り行われ、以下10名が就任することになりました。

浅野 みどり	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻	理事長
及川 郁子	東京家政大学	小児看護政策委員長
勝田 仁美	兵庫県立大学看護学部	教育委員長
上別府 圭子	東京大学大学院医学系研究科	広報委員長
塩 飽 仁	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻	副理事長／編集委員長
添田 啓子	埼玉県立大学保健医療福祉学部	診療報酬検討委員長
楢木野 裕実	大阪府立大学看護学部	学術・研究推進委員長
野間口 千香穂	宮崎大学医学部看護学科	災害対策委員長
三輪 富士代	福岡市立病院機構福岡市立こども病院	倫理委員長
薬師神 裕子	愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻	国際交流委員長

新理事長からのご挨拶、新理事体制については次号のニュースレターに掲載いたします。

## 倫理委員会活動報告

- 倫理委員会
- 委員長：中野 綾美
- 委員：石浦 光世、笹山 睦美、高谷 恭子、濱田 裕子、三宅 玉恵、三輪 富士代

倫理委員会は、子どもの権利を擁護するという視点から、①小児看護実践における倫理的課題に関すること、②子どもの権利を脅かす倫理的課題に関すること、③小児看護における研究倫理に関すること、④小児看護における倫理教育に関することの事項を検討する委員会として、2007年に設置されました。

社会や医療の動きの中で子どもの権利が脅かされている状況に対して、『改正臓器移植法の施行に向けた日本小児看護学会の見解』（2009年）、『小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針』（2010年）、『子どもを対象とする看護研究の倫理指針』（2015年）を作成し、本学会のホームページから社会に発信しています。今期の委員会では『子どものエンド オブ ライフケア指針～子どもと家族がよりよく生きることを支えるために』（2019年）を作成しました。これからの指針をご活用いただいのご意見やご感想、子どもの権利擁護の視点から問題であると考えられる出来事についてのご意見など、倫理委員会までお寄せいただければと思っております。皆さまからのご意見を活かして、子どもにとっての最善となる看護により貢献していきたいと考えています。

また、倫理委員会活動のひとつとして、日本小児看護学会学術集会においてテーマセッションを開催しています。“子どもの緩和ケアについて語り合う”をテーマに取り上げた企画を3年連続開催し、子どもの命に向き合う倫理的課題に対する感受性を高め、どのように考えたらよいのか、どのように看護実践をしていくことが子どもにとって

の最善、家族にとっての最善となるのかなど、語り合うことを大切にしてきました。平成30年度に宮崎県で開催された日本小児看護学会地方会（九州・沖縄地区）では、臨床場面における倫理カンファレンスの実際や活用に関する『臨床倫理カンファレンス』を教育委員会と共同開催し、多くの参加者との学びを深める機会となりました。さらに、日本学校保健学会第65回学術集会 編集委員会企画『学校保健の研究力を高める-学校保健領域における研究倫理』シンポジウムにおいて、「看護学領域における研究倫理『子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針』」と題し、日本小児看護学会倫理委員会の取り組みを紹介しました。職種間を超えて、子どもを対象とする研究の倫理について活発な意見交換の場となりました。

本年度の第29回学術集会では、『子どもを対象とする看護研究に関する倫理について語りましょう!』のテーマで、テーマセッションを開催いたします。多くの学会員の皆さまと今後も、子どもの権利を擁護する倫理委員会活動とともに展開していきたいと考えております。



## 編集委員会からのお知らせ

- 委員長：塩飽 仁
- 委員：有田 直子、荒木 暁子、新家 一輝、水野 芳子、相墨 生恵、井上 由紀子、小川 純子、金泉 志保美、今田 志保、今野 美紀、三国 久美、入江 亘、菅原 明子

日頃は編集委員会の活動にご協力をいただきありがとうございます。最近の動向を報告させていただきます。

### ● Online First論文公開

2019年3月31日に研究10編、実践報告1編、資料7編の計18編の論文をJ-STAGEでオンライン公開いたしました。

### ● 「資料」の原稿枚数を18枚に変更

2018年12月22日に投稿規定を変更し、「資料」の原稿枚数を14枚以内から18枚以内に変更いたしました。これによって「研究」での投稿論文が、査読の結果「資料」に変更になっても、原稿を短くする必要がなくなりました。

### ● 専任査読者の専門領域をEditorial Managerに収載

専任査読者の専門分野のkeyword470項目を、質的帰納的に整理して19領域60細目にまとめ、Editorial Managerに収載します。今後編集委員会は投稿論文の内容に合わせて、この情報を活用して査読を依頼させていただきます。これにより査読依頼の迅速化とより適格なマッチングが期待できます。

### ● 現在までの論文受理状況

電子投稿開始後の受理率は2019年5月7日現在で61%です。

### ● 2019年5月の月間J-STAGEアクセスデータ

- ・論文の月間総ダウンロード数 18654件
- ・ダウンロード数Top3論文
- 1位 ( 644回) [https://doi.org/10.20625/jschn.25.3\\_116](https://doi.org/10.20625/jschn.25.3_116)
- 2位 ( 498回) [https://doi.org/10.20625/jschn.26\\_104](https://doi.org/10.20625/jschn.26_104)
- 3位 ( 446回) [https://doi.org/10.20625/jschn.25.2\\_53](https://doi.org/10.20625/jschn.25.2_53)
- ・国別論文ダウンロード数Top3
- 1位 (17095回) 日本
- 2位 ( 1261回) アメリカ合衆国
- 3位 ( 163回) ドイツ

今後も会員の皆様のご投稿と査読へのご協力をお願い申し上げます。

## 小児看護学会のホームページが リニューアルされます！

この度、小児看護学会のホームページが大幅リニューアルされることになりました。

リニューアルに際して、小児看護学会がどのように活動しているのかを周知できるホームページとなるように構成を考え〈スマートフォン対応〉〈トップ画面の見やすさ〉〈コンテンツの探し易さ〉〈委員会活動の周知〉などを重点におき検討を重ねてきました。また、会員登録や住所変更などが行えるマイページも設置することになりました。

隙間時間に〈スマートフォン〉を用いて学会活動を見ていただけるよう、興味を引くレイアウトを検討いたしました。情報をインターネットから得ることが多い現代において学会の顔とも言える〈トップ画面〉は、従来のものよりもすっきりとしたレイアウトへと構成いたしました。〈各コンテンツ〉も適度に格納され、スクロールしなくても、ワンタッチで見たいコンテンツにたどり着けるようになっております。

- 広報委員会
- 委員長：江本 リナ
- 委員：上別府 圭子、西田 みゆき、安田 恵美子、吉野 純、鶴巻 香奈子

そして〈委員会毎にページを設け〉、委員会からの情報や、研修会開催や実施報告がタイムリーにお知らせできるような機能を設けております。

現在、最終段階の調整に入っておりますので、新規リニューアルオープンを楽しみにしててください。

広報委員会では【学会ホームページの管理・更新】【ニュースレターの編集・発行】【メールマガジンの配信】も行っております。

会員の皆様はもちろんのこと、小児看護学会に関心のある多くの方にも委員会活動や学会の成果物など、学会の取り組みを発信したいと考えております。小児看護学会がさらに発展していけるよう皆様からも多くのご意見を随時お待ちしております。

### ◆ 会員の皆様へ ◆

メールマガジンにご登録いただきますようお願い申し上げます。手続きは以下のQRコードまたはURLにアクセスして行ってください。

[http://jschn.umin.ac.jp/ml\\_add.php](http://jschn.umin.ac.jp/ml_add.php)



なお、申請には会員ID(小児看護学会会員番号(10桁))、会員名、メールアドレスが必要となります。皆様の登録をお待ちしております。

#### 広報委員会メンバー

- 委員長：江本 リナ
- 委員：上別府 圭子  
西田 みゆき  
安田 恵美子  
吉野 純  
鶴巻 香奈子